

芦屋市議会議員

大原ゆうき



Blog ブログ、日々更新中!
<http://oohara-yuuki.blog.jp/>



f 大原 裕貴
@ooharayuuki

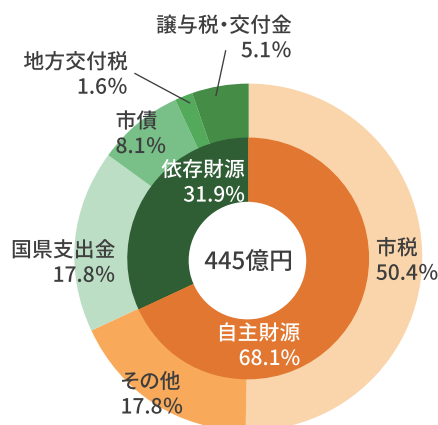
平成31年3月定例会特集

平成31年度予算を可決

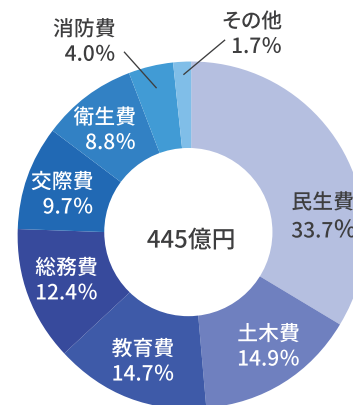
一般会計全体についての判断

歳出・歳入ともに、445億円の予算を計上。総額として、前年度比3.6%減ではあるものの、各費目の比率は概ね例年通りであり、単年度での予算案としては問題ないと判断しています。

一般会計歳入



一般会計歳出



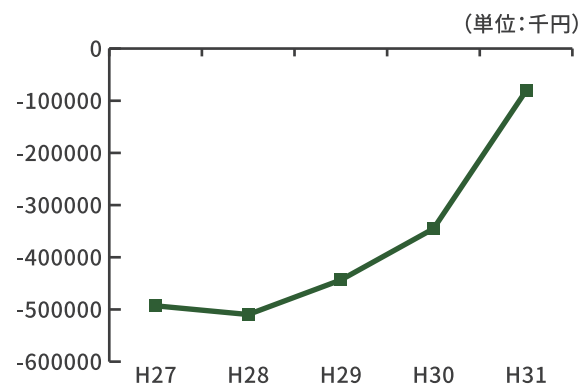
病院事業～病院経営は今が踏ん張りどころ～

◆収益力の伸び

病院事業会計において、収益力の伸びが見られました(右図)

例年3億～5億円の純損失が出ていたのに対し、新年度予算では純損失が8000万円ほどに抑制されています。

外科救急の強化、職員に対するコスト意識の徹底など、平成29年度から取り組んでいる新病院改革プランが一定の成果を出しつつあると評価しています。



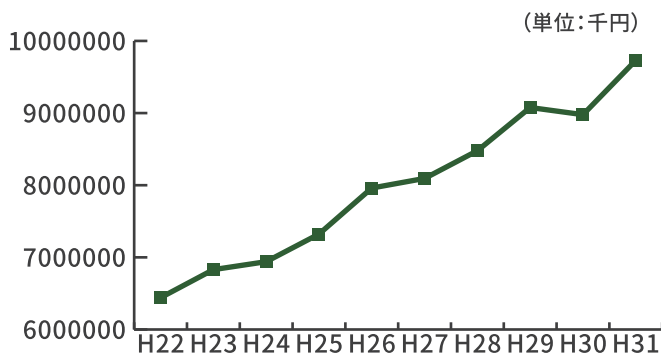
ホームページでも情報公開中! <https://oohara-yuuki.jp>

今後の芦屋市の財政は大丈夫なのか

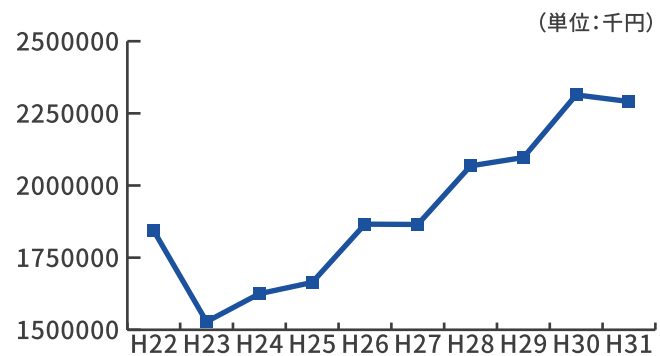
拡大が止まらない社会保障費

社会保障費のうち、大きなウエイトを占める介護保険事業費、後期高齢者医療費については右肩上がりの傾向が続いています。両事業費の予算ベースでの過去10年間の推移は以下のとおりです。

介護保険事業費推移



後期高齢者医療費推移



◆2025年には更に拡大か

特に介護保険事業費の伸びが顕著です。64億4100万円から97億3100万円と、10年間で約1.5倍も増加しています。2025年には、団塊世代が後期高齢者(75歳以上)となるため、社会保障費は2025年には今よりも更に膨れ上がることが予想されます。

◆財政負担を下げるためにも、介護の必要性を下げる努力を

介護が必要となった人への事業費を削る訳にはいきません。1人当たりの事業費を減らすためには介護予防を進め、介護を必要とする時間をなるべく短くすることが重要です。今後は、介護予防を今まで以上に力を入れる必要があると考えています。

10年後の財政状況への懸念

2月22日に開催された総務常任委員会の所管事務調査で示された長期財政収支見込みにおいて、10年後の基金と剰余金の合計額が以下のように変動するとの試算が出されました。

平成30年度時点	126億円
平成40年度時点	9億円

標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示す指標である標準財政規模が概ね230億円程度であることを考えると、基金+剰余金残高

の9億円という数字は極めて厳しいと言わざるを得ません。あれもこれも...と事業を展開できる時代ではなくなることを意味しています。行政サービスの量と質を落とすことなく行政運営を継続するには民間活力の活用など、柔軟な発想でのコスト削減意識の醸成が必要となります。加えて、事業の取捨選択をしながら、今よりも更にシビアな行政運営が求められるようになります。

将来に対する不安は尽きませんが、新年度予算案への議論の中では、引き続き安定した行政運営を継続することを強く要望し、予算案に賛成しました。

大原ゆうき プロフィール

- 昭和59年(1984年)2月8日 芦屋生まれ(35歳)
- 伊勢幼稚園、シドニー日本人学校、関西学院中学部、関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。卒業後は民間企業でシステムエンジニアとして勤務。
- 平成27年、芦屋市議会議員選挙にて初当選。平成31年、再選。

ブログ更新中!

日々の活動などを更新し、情報公開に努めています。
<http://oohara-yuuki.blog.jp/>

